

共に生き、支え合う社会づくり 第62回県社会福祉大会開催報告

永年にわたり、本県の福祉の発展に寄与されてきた方々の功績をたたえる第62回県社会福祉大会を、10月17日、県立音楽堂（横浜市西区）にて開催しました。



①受賞者代表者に感謝状・表彰状を授与 ②講演に立つ矢崎さん ③受賞者代表の丸山さん

第一部の記念講演では、金子みすゞ記念館館長・童話作家の矢崎節夫さんをお招きし、「今、こだますとさくみすゞさんのまなざし」と題してご講演をいただきました。詩の引用を挟みつつ、「否定も肯定も、一方的な励ましもせず、丸ごと受け入れ、うなずき、『こだま』すこと。自分の大切さに気づくことができないにいる方

たちと、これからも『こだま』し合っ
ていきましよう」と語り掛ける矢崎
さんに、来場者から大きな拍手が送
られました。

第二部の式典では、県知事表彰、県
社協会長表彰および感謝、県共同募
金会会長感謝の授与、第21回介護賞
と、第2回かながわ福祉みらい賞の
贈呈式を行いました。

本年度は、県介護賞（8人）、かな
がわ福祉みらい賞（2人）、社会福祉
関係者表彰（48人、9団体）、民生委
員・児童委員永年勤続表彰（10人）、
共同募金運動功労者表彰（25人、16
団体）、県社協会長表彰（572人、
114団体）、県社協会会長感謝（29
2人、13団体）、県共同募金会会長感
謝（121人、41団体）でした。

受賞者を代表して、障害者施設・
川崎市ふじみ園園長の丸山尚さんか
ら「これまで出会わせていただいた
利用者の皆さまに改めて感謝した
い」とご挨拶をいただきました。
今回受賞されました1078人、
193団体の皆さま、おめでとうご
ざいます。今後のさらなるご活躍を
お祈り申し上げます。（総務担当）

障害福祉事業所自主製品の開発と質の向上を目指して 第2回きらっと輝く製品コンテスト開催報告

10月9日、県社会福祉会館にて「第
2回きらっと輝く製品コンテスト」
が開催されました（主催：県、実施：
N）神奈川セルプセンター）。

神奈川県下の障害福祉事業所で作
られている自慢の自主製品を持ち寄
り、専門家等による評価を行うこと
で、事業所での生産活動を活性化し、
利用者の生産意欲を高めることがこ
のコンテストのねらいです。昨年に
続き2回目となる今回のコンテスト
には、食品部門33製品、非食品部門21
製品と、昨年より5つ多い合計54製
品がエントリーしました。

製品の包装や色合いがよく分かる
ようにと選んだ日当たりのよい会場
は、10月とは思えない暑さも手伝い、
プリンなどをどう冷たく維持するか
悩んだり、反対に温かいコーヒーが
冷めてしまうので審査直前に淹れた
りなど苦労もありましたが、N）神奈
川セルプセンターの役員をはじめ、
応援の事業所職員たちの協力で素早
く準備が整いました。

審査員は、県銘菓共励会や県商工
会連合会、神奈川県生活協同組合連
合会等から集まった7人の方が務め
ました。製品そのものの品質・デザイ
ン・アイデアの良さ・価格・利益率・
利用者の参加の度合い等の7つの項
目を、専門的な視点から、それぞれ評
価して採点していただきましたが、い
ずれも甲乙つけがたい出来栄の良さ
に、審査員たちも評価に苦心する様
子が見られました。

コンテストの結果は、本紙でもお
伝えしますが、来る12月18日には、ま
ぎんホールにおいて表彰式が開催さ
れる予定です。



①～③セッティングは審査直前に。食品部門では、味はもちろん、パッケージでも審査員を魅了しました

（社会福祉施設・団体担当）